

## 医薬品事業：メディカルアフェアーズ

### マテリアリティと関連するSDGs

#### イノベーションの創出による健康未来の実現



### 強み

- すべての患者さんへ最適な医療を届けるため、アンメットメディカルニーズを充足させる医学・科学的なエビデンスの構築と医療従事者等への情報発信
- 高度または最新の科学的知見等を用いた、社外医科学専門家と医学的・科学的交流
- 開発早期からのメディカルアフェアーズの関与
- 申請～承認前後の一貫したライフサイクルマネジメント

## 第六次5カ年中期経営計画の総括と、残された課題

メディカルアフェアーズでは、ペイシエント・セントリシティの視点をもって活動計画を策定しています。疾患についてより理解を促進することが必要と考え、さまざまなイベントを実施しました。例えば、筋ジストロフィーのメタバース市民公開講座では講演会だけでなく、レクリエーションや作品展なども開催しました。また、肺高血圧症Web市民公開講座では日常生活のポイント、AYA week 2024市民公開講座では「がん治療と味覚障害」と、患者さんの日常にまつわるテーマとしました。患者さんの参加人数は年々増えていますが、これらのイベントが届いていない患者さんも多数おられます。より多くの患者さんに届くよう、活動していきます。

また、自社製品に関連する疾患領域でのエビデンスを創出するために、非臨床研究、臨床研究、データベース研究、レジストリ研究などに取り組みました。データベース研究においては、「日本における貧血の割合、治療状況、また貧血患者における医療費、生活の質（QOL）、生産性損失」を明らかにする



メタバースでのイベントの様子

ことを目的として、リアルワールドデータを用いた共同研究を実施しました。2023年度にその結果が学術誌に掲載されました。また、本件について、当社Webサイトでプレスリリースを実施しました。日本では貧血が社会へ及ぼす影響について十分な報告がなかったことから、この研究結果は注目されました。本研究を通じて、「貧血」が社会的課題として認識され、貧血に対する意識を見つめ直す機会になることを願っています。エビデンス創出については、経験と実績がまだ不十分であると認識しており、今後、一つひとつ確実に積み重ねていきます。

## 第七次5カ年中期経営計画の達成に向けた戦略と今後の取り組み

私たちは、デジタル技術を医療上の課題解決やエビデンス創出に利用することを考えていきます。

例えば、ウェアラブルデバイスやアプリ、人工知能（AI）など最新の技術を活用したデジタルヘルスにも注目し、より良い医療に貢献するためにチャレンジしたいと考えています。また、エビデンス創出活動では、今後も血液がんや肺高血圧症、デュシェンヌ型筋ジストロフィー、貧血などにおいて実施中の研究の推進と新たな研究の準備を進めていきます。さらに、メディカル・サイエンス・リエゾン（MSL）\*などが把握したアンメットメディカルニーズから患者ベネフィットに繋がるエビデンスの創出・提供を目指します。

\*メディカル・サイエンス・リエゾン（MSL）：営業部門から独立した組織に属し、医学または科学分野における社外専門家との交流を主たる役割とする者のこと。